

2. 交通事業者・関係団体等ヒアリング調査

2-1 交通事業者

(1) バス会社

【利用者数】

- ・ベースとなる地域の人口が減っていることもあり、利用者は減少傾向にある。
- ・利用者は減少傾向にあることは間違いないが、最近その落ち込み方は緩くなり、下げ止まり感があった。しかし4月5月は、消費税のアップによる運賃改定（2.7%以内の幅でアップ）により大きく落ち込んだ。9月、10月と最近になって、ようやく回復してきた。

【利用状況・運行状況】

- ・高速岩内号は、朝は通学・通院の足として使われている。朝の便で小樽・札幌方面へ出て、午後戻ってくる使われ方。
- ・円山線は、神恵内線の車両を使用して、ダイヤの合間を使って運行している。今はバス4台で回している。
- ・小沢線、雷電線ともに町内の移動ではあまり使われていない。
- ・岩内高校があるので、高校生が使っている。
- ・雷電線は運行を維持するためにギリギリまで減便している。これ以上の減便は、さらなる利用者離れにつながるものであり、路線の合理化等は限界である。しかし雷電線沿線の公共交通は、この雷電線のみであり、公共交通事業者として、この路線はしっかり守っていかなければいけないと考えている。

【今後の公共交通に対する考えなど】

- ・例えば円山線は、温泉地区までの運行をやめて、違う循環線の形態とすることも考えられる。
- ・行政としてはいろいろ問題があるのかもしれないが、岩内病院、ラッキー、ホームック、マックスバリュー、ツルハ、しまむら等、住民のニーズが高いと思われる施設を結ぶ路線などが考えられる。
- ・なお、円山線の変更は、神恵内線のダイヤにも影響を与えるので、双方の路線を考慮しなければならない。
- ・循環線としての運行は、双方向の循環は経費的にも厳しいが、一方通行であれば、可能性は十分あると思われる。

- ・路線の変更については、利便性を高めること自体は問題ではないが、その分利用者が増えていかないと、バス事業者としては厳しい。
- ・また、岩内町だけではなく、共和町とも一体で考えてくれば、デマンドバスなどのニーズはあるのではないかと考えている。
- ・デマンドバスの運行については実績があり、実証運行なども含めて、いろいろ協力は惜しまない。
- ・岩内町では、一部共和町も含めて、循環型のデマンドバスを考えてもいいのではないかと思う。

(2) ハイヤー・タクシー会社

【利用者数の推移】

- ・町と取り巻く社会・経済状況を反映して、外出する回数が減少していることもあり、近年は減少傾向にある。

【主な利用者層】

- ・平日の朝は、高齢者の通院が多く、10時頃からは買物で利用する高齢者や主婦層が多い。
- ・平日の午後は、通院帰りや買物が多い。
- ・総じて、日中は高齢者の方の利用が多い状況である。市街地内の利用は500～600円台と安いため、高齢者の方で毎日使う方も多くいる。かなりの近距離でもハイヤー・タクシーが使われている。
- ・日常的な身近な交通手段としてハイヤー・タクシーが町民に定着している。乗る回数が多いが単価が安いのが岩内の特徴である。
- ・発電所関連の利用も多い。
- ・夜間について、代行業は料金が高いため、ハイヤー・タクシーを利用する方が多い。
- ・ジャンボタクシーは観光利用もみられる。

【今後の公共交通に対する考えなど】

- ・運行に関する固定費が上がっているが、料金が上げられない状況である。
- ・特に高齢者にとっては、ドア・ツー・ドア、小回りが利く移動手段としてハイヤー・タクシーは便利である。
- ・大きなバスではなく、小さい車両で頻度を多くこまめに対応していくのが重要である。
- ・バスは運行路線が限られていることもあるため、身近な移動の足としてタクシーに対する助成が必要。

2-2 関係団体等

(1) 岩内町社会福祉協議会

【高齢者の方の普段の移動手段等について】

- ・高齢者の外出の目的は、買物と通院が多い。
- ・自家用車を持っている方は、通常は車を利用している。
- ・自家用車を持たない方は、通常、路線バスよりもタクシーの利用が多いようだ。
- ・高齢になっても自分で車を運転している方がいるので、気がかりである。
- ・車が無い方は、協会病院への通院も歩いて行っているようだ。
- ・役場に行くにも公共交通が無く不便である。

【今後の公共交通に対する考えなど】

- ・今のバス路線から離れた所に住む方が移動するための交通手段があれば良い。
- ・市街地を循環するバスがあれば良い。また、タクシー助成もあれば良いと思われる。

(2) 岩内町老人クラブ連合会

【高齢者の方の普段の移動手段等について】

- ・自家用車を持っている方は、通常は自家用車で移動している。
- ・自転車交通手段のメインとして移動している方は、冬季間も自転車を利用している方もいる。
- ・老人クラブの行事については、福祉センターまでの移送サービスがある月曜日と木曜日に、できるだけあわせて実施している。また、老人移送サービスの乗車箇所以外の方から、近くを通過してほしいという意見を聞く。
- ・通院については、協会病院に行く方が多い。
- ・倶知安や小樽など町外の病院に通院している方もおり、路線バスを利用しているようだ。
- ・町内移動ではタクシーがよく使われているようだ。買物・通院の際にもタクシーが利用されている。

【今後の公共交通に対する考えなど】

- ・ジャンボタクシーや小型バスの利用などにより、市街地を循環する公共交通を考えてはどうか。

(3) ホテルグリーンパークいわない

【送迎バスの運行について】

- ・ホテルがメンテナンスのために休館する4日間を除いて毎日運行している。バスは29人乗り。
- ・バス停を定めて、そこ以外では乗降しないようにしている。路線バスと競合しないように路線を設定、団地を中心に運行している。
- ・このほかに団体客の送迎などもやっているのので、送迎バスの運行はこれで精いっぱい。
- ・送迎バスがあるとないとでは集客面でだいぶ違う。札幌あたりからお客さんを連れてこないといけない状況。

【利用状況、施設へのアクセスについて】

- ・秋から冬、春にかけて利用が若干増える。5月～10月ぐらいはいろいろ忙しいのかやや少ない。
- ・利用は多いときで1日30人（1便だと20人ぐらい）。まったく乗らない日というのは年に数日あるかどうか。台風などのときなどは乗車は極端に減るが、少なくとも1便5～6人は乗っている。
- ・利用者は圧倒的に年配の女性の方が多い。
- ・ホテルへのアクセスは車がほとんど。朝いちばんの円山線に来て、11時頃の円山線で帰る人はいる。あるいは朝の送迎バスに来て、帰りは路線バスというパターンもある。

【夜の送迎バス運行】

- ・2年ぐらい前に岩内町から銭湯がなくなった。まだ町内には風呂のない団地もあるので、それ以来火・木・土の夜にもバスを回している。以前は円山線が5時前後に着いて、6時ぐらいに帰る便があったが、減便でなくなってしまった。
- ・夜6時過ぎに運行、毎回5～8人ぐらい、ほぼ決まった顔ぶれの方が利用している。